



まじめであることは わたしのほごり

学校で
何かをまじめにやっている人を
からかいたくなってしまう。
まじめにしようと思う自分の心も
なんだかすぐたい。
こんなわたしでいいのだろうか？

さわやかな いい顔でいよう

自分のありったけを向けて
何かに一生けん命に取り組んでいるとき
きっと、わたしの顔はさわやか。

真面目とは実行することだ。
夏目漱石(小説家)

学ぶとは、誠実を胸に刻むこと。
ルイ・アラゴン(フランスの詩人)



「真面目」を
辞書で引いてみた。

まじめ「真面目」①真剣
で顔が本気になること。
②まごころがこもって誠
実なこと。
しんめんもく「真面目」
①本来のすがた。②本当
の値うち。

そう、「まじめ」は
わたしの本当のすがた。

心を暗くしてしまう 自分の中の「ずるさ」

「ずるさ」は
自分の心の中にある誠実でまじめな気持ちをおさえこもうとするとときに生まれる。
やらなくてはいけないことを後回しにしたり
自分の役割を人におしつけたり、他人の「まじめさ」をからかったり。
結局、自分の心の弱さがそうさせているのだ。
自分の中の「ずるさ」は、自分の心を暗くしてしまう。



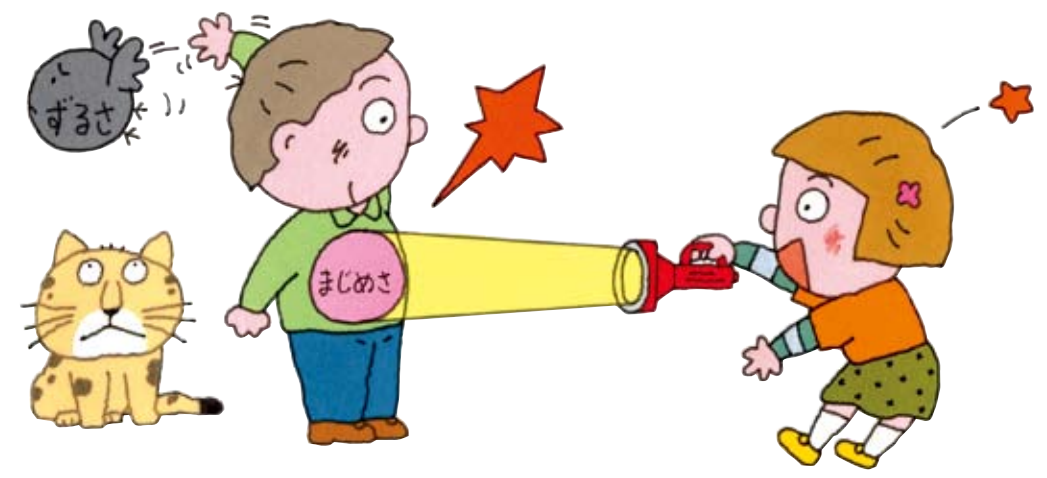
自分のまじめさにもっ

と光をあててごらん

自分の心にあるまじめな気持ちにしたがって行動することは
むずかしいことではない。はずかしいことではない。
あなたの「まじめさ」は、明るいあなたをつくっていく。

自分の心をそっとのぞいてみよう。

自分の「ずるさ」と思えること	どうしてそう思うのか?	自分の「まじめさ」に光をあてると



「まじめさ」が「ずるさ」に負けたとき
なまけよう、楽をしようという気持ちが
頭をもたげる。そして、だれかのまじめさをちゃかしたくなってくる。

こわいのは、自分の「ずるさ」を「ずるさ」と
感じないようにになってしまうこと。